

*Elaeagnus parvifolia* of Himalaya is closely allied to *E. umbellata* Thunberg of Japan, and, in order to discuss the relationship, we need more ample material from West China. However, so far as the materials at our disposal are concerned, the Himalayan plants have leaves always minutely stellate-hairy above, narrower calyx-tube, minutely apiculate anthers, copiously stellate-pilose style, and more silvery branchlets.

\* \* \* \*

東部ヒマラヤ産のグミ類を再検討した結果6種を認めた。このうち常緑秋咲きの仲間は4種である。これらは *Elaeagnus conferta* Roxb. 或は *E. arborea* Roxb. にあてられてきたが Roxburgh の基準になる標本を検討し、この兩名は同一物をさしておりその基準形は Khasia 産で東部ヒマラヤにはないことを明らかにした。しかし Kumaon 地方に近い形が見出されたが資料が不十分で断定できない。東部ヒマラヤで *E. arborea* と呼ばれてきた一種は漏斗形の花をつけ *E. infundibularis* Momiyama と名付けた。

落葉春咲きの仲間には2種ある。*E. parvifolia* Wall. ex Royle はアキグミに近いが、若葉の上面には常に細かい星状毛が密生し、萼筒はより細く、葯の先端は微凸頭、花柱には星状毛が常に多く、小枝は白っぽい。最近 *E. orientalis* L. が本種であるとの説も出されたが、リンネの基準標本を検したところ毛の性質など全く異なり明らかに別物である。

他の *E. Kanaii* Momiyama と命名した一種は、若葉は上面も鱗片でおおわれ、萼筒はやや漏斗形で太く、果実は大きく楕円形で長さ 11-14 mm, 果梗は長く 12-22 mm に達する。

□Eilif Dahl & Hildur Krog: **Macrolichens of Denmark, Finland, Norway, and Sweden.** 185 pp. Scandinavian University Books, Oslo. 1973. 46 ノルウエー・クロネ。本書はスカンジナビア産の大型地衣類の検索表を主体としたものであるが、日本産の北方系地衣類の検索にも参考になるので紹介する。1967年にイギリス地衣学会が主催して、国際地衣類採集会をノルウエーとスウェーデンで行なった時に、著者が案内のために作った検索表をもとにし、それに、形態、分化、化学等についての簡単な解説を加えて印刷したものである。最初に、本書で扱った45属の検索表、次いで各属について種の検索表があげてある。かなりのスペースをさいて、ずい所に線画が入れてあるが、これらの図は検索のためにとくに役立っていると思えない点が惜しまれる。しかし、著者等が数年間にわたって実際に使用し、検討を加えた検索表であるから、検索上間違いをおこしそうな点については充分配慮されている。(黒川 道)